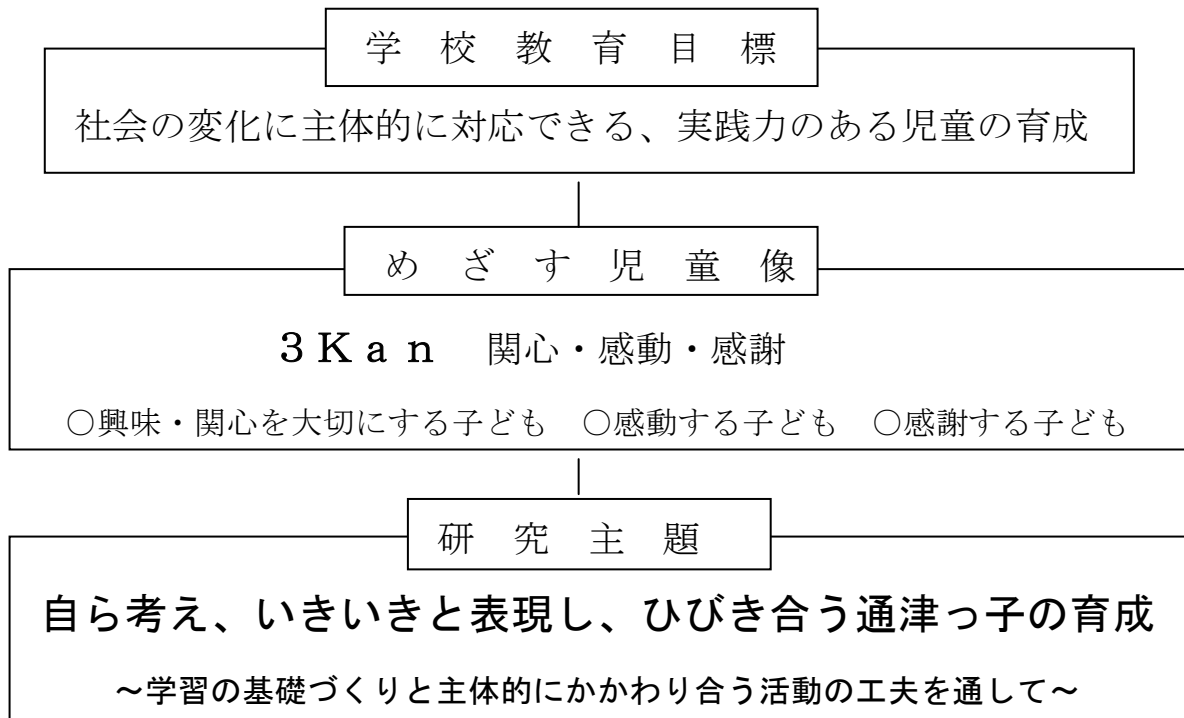


## 平成29年度校内研修全体計画



### 1 主題設定の理由

現在、社会状況が大きく変化する中で、子どもたちを取り巻く環境も著しく変わり、多様化している。いかに社会が変化しようとするか、これからの子どもたちにとって必要となるのは、自分で課題を見つけ自ら考え、主体的に判断し、行動し、よりよく問題を解決する資質や能力である。合わせて、自らを律しつつ、他人と共に協調し、感謝する心や感動する心など豊かな人間性の育成も大切である。こうした資質や能力を「生きる力」と考え、これを身に付け、豊かな人間性や社会性、国際社会に生きる日本人としての自覚を育成することが求められている。

本校の児童は、全体的に明るく、素直な面をもっている。よりよく生きるためには、互いに尊重しながら、自分の思いを相手に的確に伝える力の育成が重要となる。しかし、言語を効果的に使って自分の思いを表現することや、相手の意見に耳を傾けて正しく聞こうとする力が不十分なことが課題としてあげられる。以上のことから、「自ら考え、いきいきと表現し、ひびき合う通津っ子の育成」という研究主題を掲げ、低・中・高学年で実態にあったサブテーマを設定して、表現力や伝える力・聞く態度・見通しをもって問題解決していく力を育てるための実践を重ねてきた。

昨年度は、学習規律や基礎基本の定着など学習を支えるさまざまな取組を「学習の基礎」として充実させるとともに、児童が教材、友だち、教師、自分自身とかかわりながら主体的に学ぶ活動を工夫し、より豊かに自分の思いを表現できる児童の育成に努めてきた。

今年度は、これまでの取組を土台とし、研究主題の解明に向けて、児童の実態把握をもとに日々の授業実践を推進し、確かな学力を身につけ、共にひびき合う通津っ子の育成に努めていきたい。

## 2 研究の仮説と視点

### 【研究仮説】

児童一人ひとりに学習の基礎を身に付けさせ、わかる喜びを実感させることができれば、主体的に生き生きと学習に取り組むのではないか。	思考の仕方を指導し、主体的にかかわり合う活動を工夫することで「考える力・表現する力・聴く力」が高まり、互いにひびき合いながら確かな学力を身に付けていけるのではないか。
---	---

### 【視点】

<b>学習の基礎づくり</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 次の学習の準備とチャイム開始の徹底</li> <li>・ モジュール学習推進による基礎基本の定着</li> <li>・ 家庭学習習慣の確立</li> <li>・ ICTの活用推進</li> </ul>	<b>かかわり合いのある授業づくり</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学習の見通しがもてるめあての提示</li> <li>・ 「ふかめタイム」での思考力育成</li> <li>・ 「ひろめタイム」での学習形態の工夫</li> <li>・ めあてとふり返り活動のつながり</li> </ul>
---	---

## 3 研究の方針と内容

### (1) 研究の方針

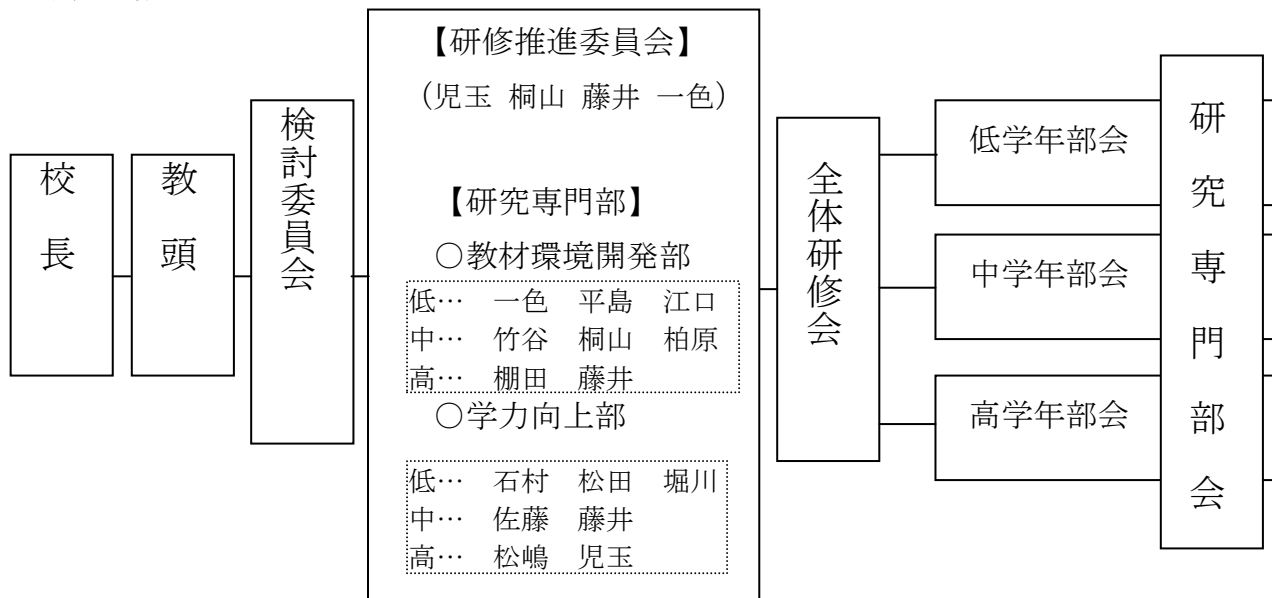
- 全校体制で児童の学力力向上に取り組む。 ⇨ 学校の組織的な取組
- 教師の実践力を高める。 ⇨ 授業研究を重視した研修（授業改善部）
- 学習の基礎づくりに取り組む。 ⇨ 学習規律の確立とモジュール学習の推進

### (2) 研究内容

- ① 全校体制で児童の学力向上に取り組むことについて
  - (ア) 全国学力学習状況調査や県の確認問題の分析と対策
    - ・ 児童の実態を把握し、年2回のPDCAサイクルを行う。
  - (イ) 「通津小学力向上プラン」の作成
    - ・ 課題を把握し、達成目標や解決の方途などの共有化を図り、全校体制で計画的に児童の学力向上に取り組む。
  - (ウ) 学力向上推進教員との授業後の協議・研修会の設定
    - ・ 授業を通して学習状況の確認や課題の把握、今後の方針や指導・支援方法について指導を受け、今後の指導につなげる。
    - ・ 全校的な課題や共通化できる事項等全体研修で指導を受け、共有化を図る。
- ② 教員の実践力を高めることについて
  - (ア) 授業公開
    - ・ 学力向上推進教員に算数科の授業公開をし、事後検討会をもつ。
    - ・ 低・中・高学年部でそれぞれ授業研究をする。
    - ・ 一人一公開授業を行い、評価し合う。
  - (イ) 研究会への積極的な参加
    - ・ 研究会参加後の復伝（資料回覧、口頭またはA4 1枚程度）
  - (ウ) 講師を招聘し、主題に関わる研修を行い、研究を深める。
- ③ 学習の基礎づくりについて
  - (ア) 学習規律
    - ・ 小中連携による研究のもと、9年間を見通した指導を確立する。
    - ・ 様々な実践を紹介し合い、スタンダードを確立していく。
    - ・ 次の学習の準備とチャイム開始の徹底を全職員で図る。
  - (イ) モジュール学習の推進
    - ・ 研究推進校から講師を招聘し、本校のモジュール学習を確立していく。
    - ・ 本講職員や外部講師によるICT研修を行い、実践化につなげる。
    - ・ モジュール月間を設け、様々な実践を紹介し合い、スタンダードを確立していく。
    - ・ ICT機器が効果的に活用できるよう、環境を整える。

- ※一人一授業を行う。教科は定めない。
- ※研究授業の記録、写真、掲示はブロックで役割分担して行う。
- ※年度末に研究収録を作って研修のまとめとする。
- ※学力向上推進教員指導授業の日には、板書型指導案または板書計画を提出し、放課後ミニ研修を行う。

#### 4 研究組織



- ※学年部研修・・・授業改善（教材研究 授業改善の推進）
  - ・低学年部・・・1・2年担任、ひまわり担任、養護教諭
  - ・中学年部・・・3・4年担任、そよかぜ担任 音楽・家庭科専科
  - ・高学年部・・・5・6年担任、たいよう担任

※研究専門部として

- 教材環境開発部・・・モジュール学習推開発 ICT活用と推進
- 学力向上部・・・児童の実態把握（学習状況調査等の分析と対策）学力向上プラン  
家庭学習習慣の確立 通津小スタンダードの確立と推進

#### 5 研修計画

月	研修専門部・学年部研修	全体研修
4	○学力学習状況調査・確認問題の採点・入力	○研修に関する共通理解 ○研修全体計画提案 ○モジュール学習研修
5	○学力学習状況調査・確認問題の分析 ○学力向上プラン作成 ○当該学年等への具体的な指導及び校内研修の活性化への取組について	○研修全体計画確認 ○指導案形式
6	○指導案検討（ 学年部）	○指導案検討 ○授業研究（ 学年部） ○研究協議 ○モジュール学習月間（公開） ○児童理解研修

7	○家庭学習週間	○ICT研修
8	○指導案検討（ 学年部）（ 学年部） ○モジュール学習教材開発 ○学力向上研修	○学力向上研修（学力向上推進委員） ○特別支援研修 ○児童理解・いじめ対策研修 ○各種研修会・教育課程復伝
9		○指導案検討（ 学年部）（ 学年部）
10		○モジュール学習月間（公開）
11	○確認問題の採点・入力 ○確認問題の分析 ○学力向上プランの見直しと前期評価 ○当該学年等への具体的な指導及び校内研修の活性化への取組について	◎確かな学力推進研修事業研究発表会 ○授業研究（ 学年部）（ 学年部） ○研究協議
12	○家庭学習週間	○児童理解・いじめ対策研修
1	○本年度の研修のまとめ ○研究集録原稿作成	○本年度の研修のまとめ ○研究収録について
2	○来年度モジュール年間計画作成	
3	○学力向上プランの後期評価 ○家庭学習週間	○研究収録製本 ○来年度の研修について